

ウバガイ (ほっきがい)



生態的特徴等

【生態】北海道から茨城県の潮間帯下部から水深 30 m の砂底に生息し、本県は本種の南限とされている。鹿島灘では、水深 5~12 m の砂泥域が生息場となっている。産卵期は春季で、3 週間程度の浮遊期を経て海底に沈着し、その後の顕著な移動はない。長命で、20 年程度の寿命がある。3 歳で概ね殻長 80 mm に達し (図 1)、漁獲対象となる。

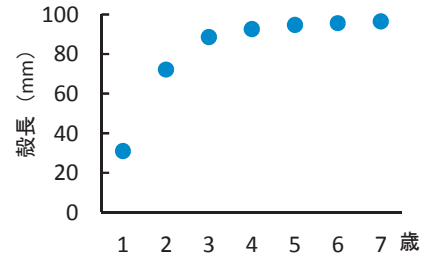


図 1 ウバガイの成長

【漁法と盛漁期】

鹿島灘では、貝けた網で周年漁獲されている。北茨城から東海地先の砂浜域にも小規模な漁場が形成されることがあり、不定期に操業が行われている。

【利用】

むき身を湯通しした刺身や炊き込みご飯などの食用の他、カレイ延縄の餌としても利用される。

卓越年級群が発生するものの、未利用

(漁獲量) S60 年代から平成初めに 500 ト以上の漁獲があったが、その後増減し、H23 年以降は 100 ト未満となっている。貝けた網で漁獲されるが、漁場の異なる鹿島灘はまぐりを狙って操業することが多いため、利用しない資源がある。

(加入量) 資源は卓越年級群の発生によって維持される。最近では H21 年、24 年に稚貝が多く発生した。

(水準と動向) 水準は、資源量推定値の推移 (図 2) から「中位」、動向は、直近 5 年間の CPUE の傾向から「横ばい」とした (図 3)。

水準



動向

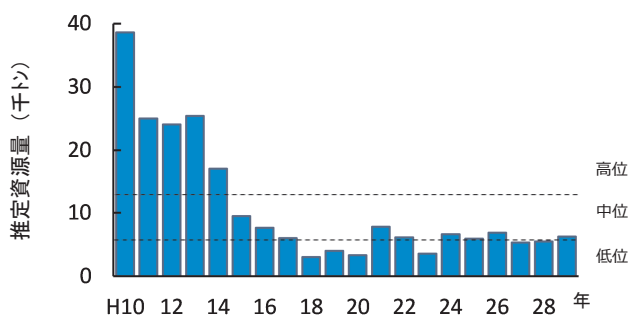
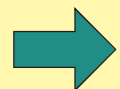


図 2 資源量推定値の推移

(水産試験場調査結果より)

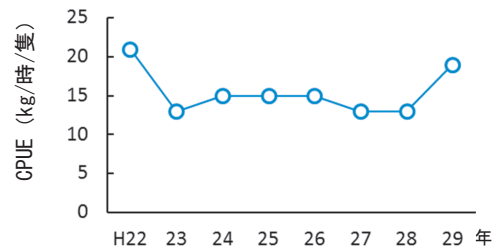


図 3 ウバガイの CPUE (貝けた網)

【全国の漁獲動向】

- ・北海道、青森県 (太平洋側)、福島県が主要産地となっている。

評価期間：平成 29 年 1~12 月 更新日：平成 30 年 11 月 1 日